



「山の空気はおいしいねえ。」 焼津市花沢の里にて

せ は あ

藤枝市中ノ合26-1
医療法人社団 八洲会
誠和藤枝病院
(054) 638-3111(代)

診療時間
月～金
午前9:00～午後5:00
土
午前9:00～午前12:00

『老いを看取る』

院長 浅川 建史

古代や中世の絵巻き物や説話の中に、赤い服を着せられて、他愛なく喜ぶ還暦の老人が描かれ、あるいは「子供がえり」といわれる老人性痴呆状態が表現されています。当時、世俗の規制から開放された様にみえる痴呆は、むしろ神に近い状態であり、死後、自分たち子孫の守護神となるものととらえていました。つまり老人を敬い世話をすることは神を祭る事と同じと考え、介護に積極的な意味合いを持たせたものとされています。一方、老女が狂乱して我が子を襲うといった話のような、異常行動を伴った老人に、悲劇的な最後を迎えさせる説話も数多くあります。これは果てしなく続く痴呆の介護に疲れ、老いを恨んだ一面であった、と社会学者は説明します。このように老人介護の問題は、高齢化社会の今に始まった事ではありません。

現在、在宅寝たきり高齢者二十八万人、要介護者八十七万人で、在宅での老人性痴呆症の出現率は五パーセントといわれます。どんな困難があっても、年老いた親を同じ屋根の下で看取るのだと覚悟を決めて家庭に引き取っても、徘徊や不潔行為、幻想や幻聴を伴うと、生活は一変し、家庭は修羅場となり、介護者は早晚身心もへとへとに疲れきってしまう現実もごさいます。しかも介護者の八十五パーセントが直接の血縁に無い妻や嫁であり、二人に一人が、六十歳以上の老人、驚くべきことに五人に一人が七十歳以上の「老老介護」です。つまり家庭の介護力は徹底的に不足しており、もつと多くの介護支援が必要です。我々が今どんなに元気で、「老いや死」ほど金持ちにも貧乏人にも平等に与えられるものはないでしょう。これと上手に付き合う事が老いを迎えたものにとっての永遠のテーマであり、同時に老いを支えるものにとって、今も昔も続く重大な問題でありましよう。

九月にいいよいよ当誠和藤枝病院の増改築工事が着工され、来年夏にはさらに充実した設備の介護型病院が完成する予定です。当院を第一線の長寿科学の研究及び実践機関としてさらに充実し発展させていきたい。と同時に我々医療従事者は、人々が望む本当の医学の目標を『老いを看取る』事から常に学び続ける姿勢をこれからも持ち続けていきたいと思っています。

秋の散歩

医療相談室 海野昭三

待望の秋の散歩が行われた。当日は幸いにも晴天に恵まれ、参加の患者さん達は朝早くから心浮きうき、集合時間前から玄関に降りて来ていた。

目的地は、すでにスタッフが下見して来ており、焼津市の花沢の里で



焼津市浜当目

ある。

おとしより達は、二台の車に分乗し、久し振りに車窓から見る町並と、行き交う車にビックリ。車は焼津港を通り浜当目の海岸にて下車してひと休み。海の色は、ことのほか青く、みんな気持ちいいねと感嘆の声をあげていた。少し風が強かったため長居できず、次の目的地に向かった。

花沢の里は、山あいの閑静な処でコスモスの花が咲いていた広場にて持参の弁当を広げた。病院のベットで食べる昼食と違い、晴天の空の下でコスモスの花を眺めながらの食事は、ことのほか美味であったと喜んでた。これも栄養科の人達が朝早くから心をこめて作ってくれたおかげと感謝する。

食事が終って伊藤二万人さんのお得意の歌も披露されたり、周辺を散歩し約一時間位の時を楽しく過ごすことが出来た。

あまり長時間だと疲れるので名残りおいしいが帰途についた。

毎年恒例の行事であるが、出来る限り患者さんが喜び生き甲斐を感じる様に職員一同努力していきたいと思っっている。

「ケアプランの手始めに当って」

看護主任 増井章子



今までは大きな仕事の流れの中でケアを行って来ましたが、これからは患者

さん一人一人についての、より一層の計画性のあるケアが求められる事が必要となって来ました。

ケアに携わる者が勉強を重ね、実践を通してプランを立て実行しなければなりません。そのためには患者さんの気持ちになって力を合わせ、努力をしていきたいと思えます。



花沢の里

病院・施設等の清潔環境をお手伝い致します。

株式会社 中部リネンサプライ

〒430 浜松市曳馬5丁目18番10号
TEL (053) 472-1388
FAX (053) 474-1417

医療ガスと設備関連機器の総合商社

株式会社 千代田

静岡営業所

〒425 焼津市三ケ名1495-1
FAX (054) 628-5357

老人用ベッド・車椅子・介護用品医療

東西医用器株式会社

本社 静岡市千代田5丁目3番9号
TEL (054) 245-5746 (代)
FAX (054) 246-1441
営業所 静岡・浜松・富士・沼津

投稿コーナー

患者さん 杉山

繁^{しげ}

一、感謝する、看護婦さんの温かさ
一、拝みたい、ヘルパーさんのしもの世話

一、三人の誠^{まこと}で浮かぶ湯舟かな

一、毎日の健康食に手を合わせる

一、毎月床屋さん親子で奉仕、心から感謝

私の心境でございまして、感謝してお世話になっております。
有難うございます。

秋の遠足

患者さん 小池 博

花沢の里に遠足に行きました。

山の風景が入院患者に最高の宝物でした。

栄養士さんの心のこもったお弁当がおいしくて、底まで全部食べました。
本当にありがとうございます。



『雲を見る』

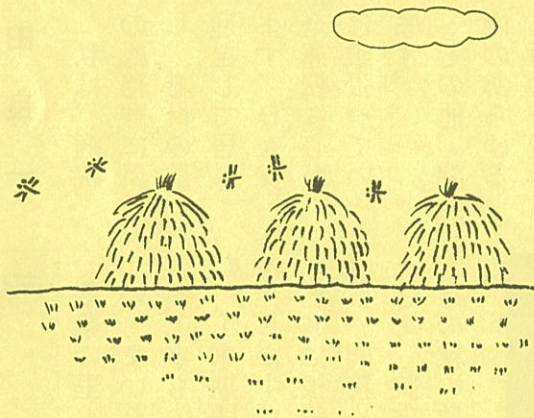
医師 小出 治 敏

新幹線によく乗るようになってから雲に興味を持つようになった。地上の風景は見慣れてしまつて興味がなくなつてしまつたが、雲は、絶えず形を変えて楽しませてくれるからだ。行く雲を旅人にたとえる文学的表現も面白いが、科学の目で見ると一層楽しい。積乱雲が湧き立つのを見て、あそこでは上昇気流が起きているんだとか、規則正しく並んだひつじ雲から低気圧や前線が近くにあるのかと想像していると数時間電車



9月5日敬老会1F職員による「いなばの白うさぎ」

に乗っていてもあまり退屈しない。またある本によると長期療養中の人も雲に関心を示すようになるという。私にはよくわかるような気がする。当院の患者さん達も案外雲の変化に興味深くながめている人が多いのかも知れない。脳卒中の後遺症で寝たきりになつたばかりか失語症まで合併して、意識はしっかりしていても意思表示や他人との意志疎通が難しくなつた患者さんの秘かな楽しみは雲のウォッチングかもしれない。多彩な秋の雲の変化を楽しんでくれているかなとおせっかいな気が起きる季節である。



医療給食とカフェテリアシステム



静岡事業本部

富士産業株式会社

☎422 静岡市南町6-1(南町第1ビル3F)
TEL (054)282-8311(代)
FAX (054)282-8344
本社：東京都港区新橋5-32-7(F I ビル)
TEL (03)5400-6111

包装用品のデパート
見て選ぶ時代です。

(有)包装センター アオキ

焼津市八楠1丁目13-21
TEL・FAX (054) 626-2880
営業時間 AM6:00~PM6:00
(日曜・祭日は午前中のみ営業)

総合ビルメンテナンス

大 鵬

〒426 藤枝市音羽町4-14-1
TEL (054)643-8114
FAX (054)643-8130

職員の紹介

看護婦 佐藤 ひろ子



誠和藤枝病院に勤めて六年になります。この辺りは自然が豊かで山歩きの好きな私には格好の地です。とりわけ秋の高根山は素晴らしく道沿いに咲きみだれるセキヤノアキチヨウジは紫の花火さながらです。その傍らにひっそりと咲く白いセンブリが可憐です。又春の葉梨川も捨て難く銀色に群れをなすハヤを狙ってカワウが潜水の妙技を披露してくれます。

毎日楽しみを見つけないが患者さんを家族と思ひ、お世話させていただきたいと思ひます。

介護職員 杉山 容子



緑の山並に囲まれた中を葉梨川にそってひた走り、介護の道をまっしぐらやり甲斐のある仕事につけたことがとても誇りに思ひます。

月日のたつのは早いもの、七年の歳月がたち、白髪まじりの自分を振り返り『まだまだ患者さんとの触れ合いを大切に頑張らなくては』と心の中で言い聞かせる今日このごろです。もっか大好きな水墨画勉強中どうぞよろしく。

総務 村田 良一



私は、病院の総務課に属し、職員の送迎をして居ります。日々安全運転に心がけ頑張っています。

その他、院内のあらゆる箇所の修理や大工仕事等、なんでもやります。

これからも、職員や患者さんに愛される村田のおじさんでいたいと思ひます。

医療法人社団 誠和藤枝病院 職員募集

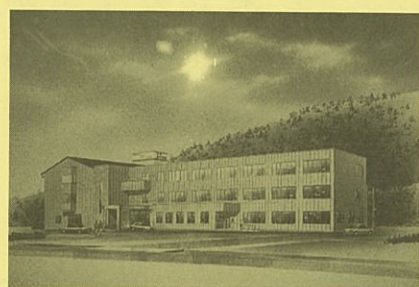
◎看護婦
◎理学療法士
◎作業療法士

詳しいお問い合わせは
TEL(054)638-3111
担当 事務長 八木

報告

葉梨の里も朝夕の冷え込みが増し、野山も色づいてまいりました。来年6月完成をメドに増改築工事もいよいよ本格的になってまいりました。工事期間中は大変御迷惑をおかけすることと存じますが、よろしくお願ひ申し上げます。地域に根差した医療を目標に、院長をはじめ職員一同務めております。

さて、院内の行事としまして、九月の敬老会十月の秋の散歩等を催し、楽しいひとときを過ごしていただきました。



完成予想図

そして、恒例になりました葉梨幼稚園の園児をお迎えして、クリスマス会を十二月十六日に予定しています。園児の明るい歌声や楽器の演奏を、患者さんたちは今からとても楽しみにしています。

編集後記

院内報『せいわ』も第10号を迎えました。これからも、より多くの患者さんに喜んでいただけるよう、内容を充実させていきたいと思ひます。